

CSI

Center for
Social Innovation
Initiatives

JOURNAL 2025

紡いだ絆、その先の挑戦へ

クロストーク 心に「笑い」を 地域にイノベーションを

長野県立大学 学長 金田一 真澄 × ソーシャル・イノベーション創出センター センター長 東 俊之

地域コーディネーター紹介
学生コーディネーター紹介

地域で活躍する学生たち

デリバリー・アカデミア/公開講座/産官民学の連携



長野県立大学
THE UNIVERSITY OF NAGANO

心に「笑い」を 地域にイノベーションを

Cross Talk クロストーク



長野県立大学 学長
きん だいち ますみ
金田一 真澄

長野県立大学初代学長（2018年4月～2026年3月）、慶應義塾大学名誉教授。早稲田大学大学院理工学研究科電気工学専攻修士課程修了。東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。文学博士。専門分野：ロシア語、言語学。

ソーシャル・イノベーション創出センター
センター長
准教授

あずま としゆき
東 俊之

京都府出身。京都産業大学大学院マネジメント研究科博士後期課程修了。金沢工業大学講師・准教授を経て現職。専門は、経営組織論、組織関係論。

開学から8年間、準備段階を含めれば10年以上にわたり、
初代学長として本学の礎を築き上げてきた金田一先生。
CSIと共に挑んだ日々や地域と紡いだ絆について、東センター長と振り返ります。
次世代を担う学生や教職員へ託す真摯なメッセージ、長野県立大学の未来にかける熱い想いも伺いました。

開学を支えたCSIの軌跡

東 | 3月でのご退任、本当に寂しい限りです。退任という大きな節目を前に、今の心境をお聞かせください。

金田一 | 8年間を振り返り、痛感しているのは初代学長としての責任の重さです。開学前から困難が続く「大学を一からつくる」ことの難しさを幾度も思い知らされました。その中で掲げたのが「リーダー輩出」「地域イノベーション」「グローバル発信」という三つの使命です。また県立大である以上、地域への貢献は重要な責務です。その最前線を担ってくれたのがCSIであり、開学前から王滝村と育んできた絆は、その後のプロジェクトの原点となりました。当時、現場で奔走して下さった先生方には頭が上がりません。

東 | CSIの活動を常に温かく見守っていただき感謝申し上げます。先生には個人的にもお付き合いいただきました。教職員の有志で行った学園祭の「桃太郎」の劇では、キジ役を快く引き受けてくださいましたね。

金田一 | まるでドリフのコントでしたね（笑）。でも本当に楽しかった。学長という立場でも皆と同じ舞台に立ち、真剣にバカなことをやる。そんな経験、普通の学長人生では決して味わえないものです。何より「一緒にやりませんか」と声をかけてもらったことがうれしかった。深刻なニュースが続く時代だからこそ「笑い」はとても大切なものであり、本学は笑顔があふれる場所であってほしい。あの「桃太郎」は、そんな私の思いを実現してくれた舞台でした。

里山の暮らしの中にSDGsの原点がある

東 | 着任前後で、長野の印象に変化はありましたか。

金田一 | 東京では中央線沿線に暮らしており、そこから繋がる長野県には親しみもありましたし、もともと大好きな場所でした。印象の変化といえば、開学前のアンケート結果です。「長野を象徴するものは」との問いに「アルプス」ではなく「千曲川」という答えが多かったのは

意外でしたね。そこで学歌を作詞する際、一番に千曲川を、三番にアルプスを据えました。

東 | 地域のアイデンティティを捉えた歌詞になりましたね。

金田一 | 中野や飯山を訪れると、日本の原風景が今も息づいていることに気づきます。千曲川のほとりに広がる菜の花畑を目にしたときは、高野辰之が作詞した「故郷」の世界そのものと心が震えました。高野をはじめ中山晋平、久石譲など偉大な音楽家を輩出してきたこの地には、確かな理由があるように思う。実は「里山」という言葉の初出も江戸末期の木曾に関する報告書だと言われています。人の営みと自然が無理なく共存する里山こそSDGsの原点であり、こうした先人の知恵を大切に守り抜いてほしいと願っています。

東 | その想いを背景に、先生が関わってきた地域活動についてお聞かせください。

金田一 | 毎年関わらせていただいた「NaSLA（ながのシニアライフアカデミー）」での講演活動は忘れられません。70代、80代の受講生の方々の熱心な眼

差しと鋭い質問に、長野の方々にとって「学ぶこと」はまさに生きがいのだと、私の方が刺激をいただくばかりでした。もう一つは、テレビ信州の番組評価委員としての活動です。地方メディアは地域にとって欠かせないものであり、大学の活動を届ける上でもメディアと信頼を築くことの重要性を肌で感じてきました。

東 | 一年次の「発信力ゼミII」でも、学生たちと地域へ笑いを届ける活動に取り組まれましたね。

金田一 | ええ、2年前の雪深い年末、小谷村で地域の方々を前にコントや漫才を披露したのは良い思い出です。笑いは控えめでしたが（笑）、地域の方々と同じ空気感を分かち合った経験は学生たちにとっても貴重な学びになったはずですよ。

地域に溶け込み 多様な挑戦が芽吹く場に

東 | 加えて、学生の想いを後押しする強い姿勢も印象に残っています。2019年、千曲川氾濫の際にはボランティア活動を欠席扱いにしない「特例措置」を即断さ

れました。当時、教務委員だった私としては戸惑いもありましたが（笑）、あの決断こそ、学生に地域貢献の必要性を理解させる強いメッセージになったと思います。

金田一 | あの日のことは今も忘れられません。10月18日、学生たちが突然、私の部屋を訪れました。「被災地で困っている人を助けたい」「休んだ分は後で必ず取り戻しますから」。そう言って、彼らは350人の署名が並んだ嘆願書を差し出したんです。……すみません、この話をすると、今でも涙が込み上げてしまうのですが、その真っ直ぐな彼らの瞳を見たとき、迷いはありませんでした。「ぜひ行ってくれ」と。教務の皆さんには申し訳ありませんが、その瞬間は手続きのことなんて考えられなかった。学生たちがこれほど優しく、遅しく成長してくれたことが、何よりうれしかったんです。

東 | 後日、被災地から届いた感謝の手紙も、彼らの心の財産になったはずですよ。

金田一 | 誰かの役に立ちたいという真っ直ぐな心。それこそがボランティアの原点であり、自ら立ち上がった学生たちの行動を私は心から誇りに思います。

東 | 地域へ飛び出す学生にも支援をいただきましたね。

金田一 | 研究支援が主目的の「学長裁量経費」の枠組みでは、学生を十分に支えきれないもどかしさもあり、企業の協力を得て創設したのが「SDGs・地域貢献アイデアコンペ」です。そこから「まちかど図書館ほたん」などが芽吹きました。

東 | 先生から見て、本学の学生にはどのような特徴があると思われますか。

金田一 | 一言で表すなら「真面目」ですね。派手に自己主張できるタイプではありませんが着実に物事を積み上げる誠実さがあります。それゆえに集客やPRの難しさに直面し、悩む姿も目にしましたが、一人ひとりが自分らしい関わり方を模索し、地域に根を広げている。その多様性も強みだと感じます。

もっと自由に さらなる挑戦を

東 | 地域で挑戦したいと考えている現役生や卒業生へメッセージをいただけますか。

金田一 | 私自身も8年間長野暮らし、地域の祭りにも参加していますが、実際に飛び込んでみると案外おもしろいものです。このように地域に関わることは特別ではなく、本来は日常の延長線上にあるもの。日本の祭りは世界に誇る文化の一つですが、どこも担い手不足に直面しています。だからこそ若い人たちには「場」に立ってほしい。話を聞く、あるいは思い切って神輿を担いでみる。その一歩が社会を支える力になり、SDGsの精神にも繋がるはずですよ。

東 | 本学を支えてくださるステークホルダーの方々にもお言葉をお願いします。

金田一 | 本学を温かく受け入れ、共に歩んでくださる地域や企業の皆さまに心から感謝申し上げます。この繋がりをより確かなものにするために提案があります。一つは講堂の活用です。能登半島地震の際に開いたチャリティーコンサートのように、文化が花開く拠点にできたらいいですね。



例え命名権（ネーミングライツ）を募り、支援によって活動を継続できる仕組みを作るのもいい。二つ目は大学の「日常」を地域に開くことです。本学自慢の食堂は、現状では学内利用限定に見えますが、地域の方々が気軽に立ち寄れる仕組みをつくれば、大学はもっと愛される場所になるはず。こうした可能性を共に形にしていきたいです。

東 | これからの長野県立大学が目指すべき理想像については、いかがですか。

金田一 | 少子化が加速し、大学の真価が問われる時代になります。その中で、本学の「一年次全寮制」という特色は武器になるはず。若者が集い、互いを磨き抜く場であり、留学生を受け入れる際にも磁力となるでしょう。この価値を再確認することが未来を拓く鍵になると感じています。

東 | 最後に、先生の想いを受け継ぎ歩み続ける私たち教職員へもお言葉をお願いします。

金田一 | 8年間を振り返り、私の心にあ

るのは「ありがとう」という感謝の想いだけです。65歳で前職を離れてこの地に導かれたことは私にとって奇跡のような幸運でした。

教員の皆さんの学生一人ひとりと真摯に向き合う姿勢は、私が関わってきた数々の学校の中でも際立って素晴らしいものです。また、事務局の皆さんもゼロからのスタートという困難を乗り越え、学生を支えるプロ集団へと成長してくれました。教職員が一体となり一人ひとりの学生のために全力を尽くす。この絆こそ、わが大学の最大の宝です。

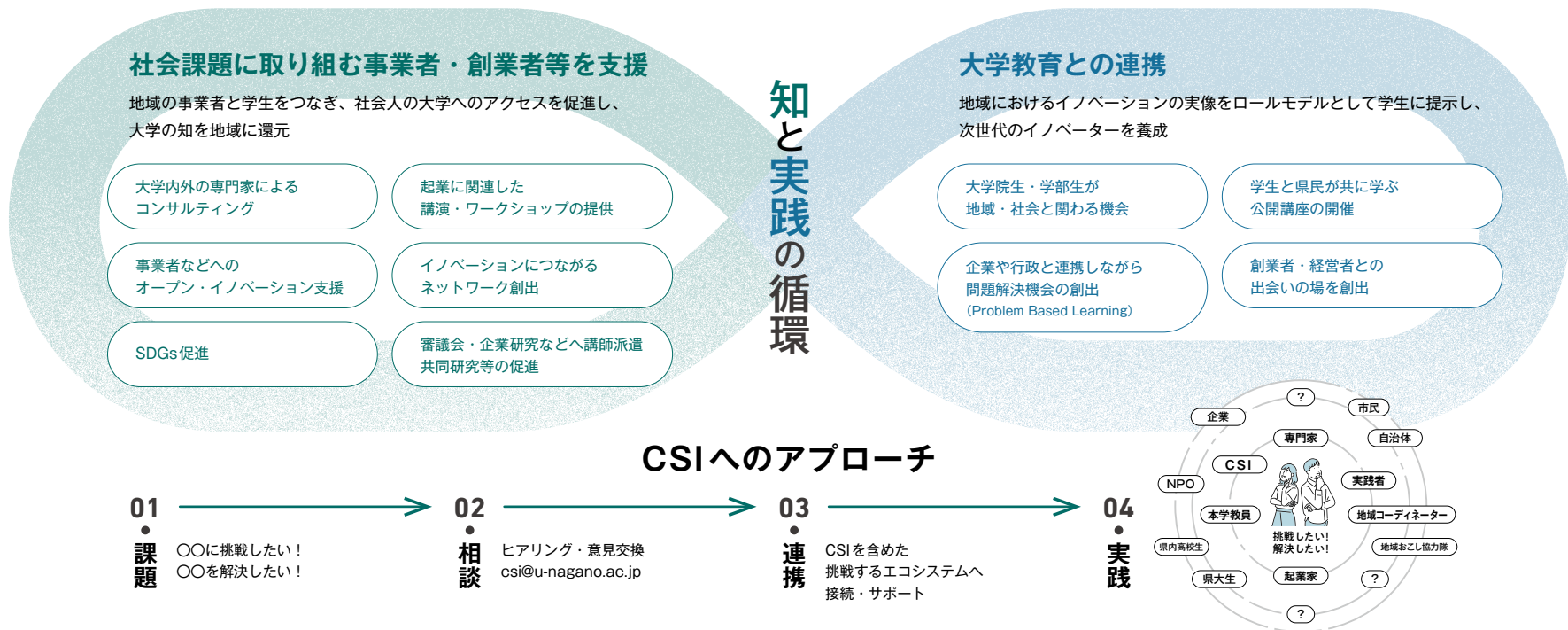
そして、その最前線を走るCSIの皆さん。「CSIがあるから、この大学は面白い」ともっと言われてもいい。もっと前に出ていい。挑戦をどうか止めないでください。これが、私からの最後のお願いです。

東 | 今日のお話を胸に、先生が灯してくださった「地域イノベーション」の火を絶やすことなく広げていきたいと思いません。本日はありがとうございました。

CSIのミッション

持続可能な社会の実現を目指し、ソーシャル・イノベーションを促進します。

CSIは、「社会課題を生まない」「社会課題を解決する」ことに理念を持つ人が、一步を踏み出せるシステムを醸成し、持続可能な社会の実現に挑戦しています。多様な立場の人々が絡み合う「オープン・イノベーション」を軸に、社会課題を解決するための新しい仕組みやサービス、商品等の開発を促進します。



地域

コーディネーター

紹介



人が地域に居続けられるための再設計

上田地域で展開している「うえだ子どもシネマクラブ(上田映劇)」や「やどかりハウス(犀の角)」はいずれも「関係性」を再設計する点において、とてもイノベーション的であると言えます。共通することは、既存の文化施設の存在意味そのものを問い直し、新しい価値を更新しているというところ。上田映劇においては作品を鑑賞(消費)する場から、子どもたちの居場所や学びの場としての転換が起こり、犀の角では、劇場やゲストハウスが機能別に分離されるのではなく、多様な人が駆け込むことで関係性を編み直す場として再定義がされています。不登校、ひきこもり、

DVや性被害など様々な社会課題が溢れる日本社会において、福祉的視座ではなく、文化施設を拠点に「人が地域に居続けられる条件」を再設計していること。文化を一過性の消費ではなく生活に根ざしたインフラとして機能させていることは、地域そのものを少しずつ変えていくささやかな実験でもあります。“揺らぎ”や“疑い”を歓迎できる、文化芸術ならではの許容の広さがあるからこそ、関わる人たちが面白がりながら続けているのかもしれません。私はこの「実験」の伴走者として、今後も地域との橋渡し役を担っていきたいと考えています。



直井 恵 東信地域担当

プロフィール 上田市出身。国際開発・国際関係を専攻後、国際協力NGOや環境NPO勤務を経て、出産を機に地元に戻りUターン。地域で多様な民族や文化を媒体に映画や音楽や祭りで交流する市民企画を数々行う。2017年からは100年の歴史を持つ映画館「上田映劇」の再起動に関わり、同劇場で学校に行きづらい子どもたちの新たな居場所と学びの場として映画館を活用する「うえだ子どもシネマクラブ」を始動する。複数のNPOに関わりながら、文化芸術と運動の間を行き来する日々。

まちの日常に小さな変化を生み出す拠点

小布施町の中心部にある元豆腐屋をリノベーションし、拠点づくりを進めています。旅行や移住体験で泊まれるゲストハウス、中国茶や飲茶が楽しめる飲食店、仕事ができるワークスペースという機能を備えた場所として、2026年4月に開業予定です。まちに暮らす人も、遠方から訪れた人も、下校途中の中学生も、農作業を終えたおばあちゃんも、色々な人が行き交う場になれば、との願いを込めて「往来」と名付けました。

現在は、長野県立大学の学生もチームに合わせ、開業に向けた準備の真っ最中！工事期

間でも建物を開放し、ポップアップ出店や「哲学対話」などのイベントを企画しています。

「ソーシャル・イノベーション」というと、何かかっこいい、難しいものをイメージしがち。でも、普段出会わない人が交わり、地域の日常と一緒に楽しむことも、人や地域にしなやかな変化をもたらすのではないかと。「往来」でそんな小さな社会実験を仕掛けていきます。



日高 健 北信地域担当

プロフィール 東京都出身。米国ミネソタ州Carleton College卒業後、コンサルティングファームを経て2020年1月に長野県小布施町に移住。地域に根差した事業や暮らしと、異分野のヒト・コトを掛け合わせる活動に取り組む。NTT東日本・東京大学・小布施町の産学官連携プログラム「ミライ構想カレッジ in 小布施」や、地域ぐるみで経営・人事の課題に取り組む「小布施まちの人事部」等の立ち上げに携わる。

長野県立大学の地域コーディネーターは、長野県各地区に常駐し、地域事業者や自治体等と大学を繋ぎながら、各地で多様な活動を実践しています。日常のしなやかな変化をイノベーションと捉え、単なる仲介役に留まらず、地域に深く根ざし、既存の価値観を問い直しながら新たな関係性を生み出し続けています。



人と自然が生かし合う営みを探る旅へ 伊那谷リジェネラティブ・ジャーニー

長野県の南エリアに位置する伊那谷は、いま世界中で求められつつある、リジェネラティブ（自然再生型）ビジネスや社会発展モデルがいくつも息づく、知られざる先進地です。昔からの農林業を続けながらも、現金を得るために工場でも働くことで、荒廃したふるさとの再生と経済発展を両立するKOAの「農工一体経営」や、働き手の幸せや地域環境の保全を第一に考えた伊那食品工業の「年輪経営」、森林再生につながる家具づくりに取り組む「やまとわ」など。

そんな伊那谷を巡りながら、「人・地域・地球が共に健やかさを取り戻していく商いとは何か?」、「自分が未来に継いでいきたい営みとは?」などの深い問いについて対話・内省・発酵させていくフィールドワークを2025年は複数回にわたって開きました。結果として、地域プレイヤーと参加者の間での共創プロジェクトが立ち上がったたり、新たなビジネスの種が見つかるなど、偶発的なイノベーションが生まれています。



北埜 航太 中南信地域担当

プロフィール 東京都生まれ。学習院大学法学部を卒業後、戦略PR会社、新聞社系ニュースメディアで広報・ブランディング業務に従事し、2019年より辰野町に移住。地域と関係人口、消費者と生産者、経営者と社員などの間に立ち、双方の対話を促しながら、主客を超えた共創が生まれる複数のプログラムを企画。あわい代表、(一財)伊那谷財団理事、JR東海 共創型ローカルメディア「conomichi」編集ディレクター等。

“内から湧き出る 創造的なエネルギー”を育む学び

「アントレプレナーシップ」「内発的発展」「自治」といったものは今日的な学びや地域づくりのキーワードとしてよく挙げられます。こうした言葉に共通する“内から湧き出る創造的なエネルギー”は、どうしたら育むことができるのか、その高校生向けの教育カリキュラムと一緒に考え実践するインターンシップを、松川高校をフィールドに県立大の学生や関心の高い若者と一緒に取り組みました。

今年度は、①魅力的な起業家たちから学ぶ

“やりたいことに会う授業”、②哲学対話をベースとした“やりたいことを掘り下げる授業”、③想像を形にする“やりたいことを実際にやってみる授業”の3つの視点からアプローチ。③では、通学用のバス停や桜の木の下でお昼を食べるためのベンチを地元の材木屋さん、家具屋さん、大工さんとともに制作・設置したりもしました。

一人ひとりの自己実現を育む芽が開く未来に、今からワクワクしてしまいます。



新井 直彦 南信地域担当

プロフィール 松川町出身・在住。社会教育と学校教育の間を行き来しながら、夢中になることコト、心つき動かされるコトを起点に若者たち発のプロジェクトを妄想からアクションまでフル伴走支援する。主な取組みとして「旅する図書館」「りんごギター製作」「マツカワたがやすかいぎ」「マツカワ×シナガワたがやす塾」「松川高校ベンチプロジェクト」など。



松川町で行った食育ワークショップは、学生が松川町の有機給食の良さに触れ、農家さんや松川町の方々に直接有機給食に対する想いをお聞きすることを主な目的として実施しました。ワークショップには、食育やこどもに興味のある学生にも参加してもらい、地域で生産された有機農産物が給食として提供される背景や意義を、実体験として学ぶ機会となりました。町内の農家さん訪問や、小学校にお邪魔して小学生と一緒に実際の有機給食を食べたり、

栄養教諭や町役場の方から直接お話を伺ったりしたことで、松川町が町全体で食育に力を入れている様子や、それぞれの立場からの想いに触れることができました。今後は、ワークショップ参加者の「こどもたちに食べる楽しみを伝えたい」という思いから、松川町の食材を活かした親子おやつ作りイベントなども企画し、地域・学生が継続的につながる場を大切にしながら、活動を続けていく予定です。

原 真彩 さん

プロフィール 長野県立大学健康発達学部食健康学科3年。食を通じて人と人がつながる場をつくりたいという思いから、学生コーディネーターとして活動を開始。これまで、市内ゲストハウスで給食メニューを再現し、参加者が一緒に食卓を囲む「給食会」など、食をきっかけにした交流の場づくりに取り組む。食卓というあたたかい雰囲気の中でみんなが心を開いて話せる場だからこそ生まれる何かにとてもわくわくしている。



学生

コーディネーター

紹介

現在大学の制度を使わせていただき、長野県産材を使った長野県の形のギターを製作しています。学部を問わない6名の学生でプロジェクトを運営しています。長野県の産業の魅力や課題を感じ、地域との連携を強めています。活動内では「長野県の林業や農業のリアルを知られてよかった」「今日、この場所に来られただけでも価値があった」など地域に飛び出す魅力を感じています。更にメンバー同士で話し合い担当分けを行うなど、プロジェクト

を通じて主体的な活動の企画運営への興味も強まっています。

また、自分が企画運営するだけでなく学生が地域とつながる役も担っています。普段のラフな会話から学生の細かな興味を引き出します。地域のインターンへ紹介、長野県の対象地域の地域コーディネーターへのセッティング、地域の情報をnoteで発信、面白い大人へつなげたりもしています。これらを経て、つなげた学生は現在進行形で地域に飛び出して活動をしています。



市瀬 森友 さん

プロフィール 長野県立大学グローバルマネジメント学部1年、12/24生まれのクリスマス（イブ）ボーイ。長野県松川町出身。高校では地域の方々と共に、りんごの木を使ったギターを製作。その際、頼れる大人に地域と自分を「つないで」いただいた経験から、今度は自分が「つなぐ」側に立ちたいと思いCSI学生コーディネーターとして活動中。



私 は主に二つの長期プロジェクトに取り組んできました。

一つ目は、象山寮にコンポストを設置し、生ごみを堆肥化して野菜栽培につなげる循環づくりです。県大生の発想から始まった企画で、資源を無駄にしない学生生活の実現を目的としています。長野県立大学SDGs・地域貢献アイデアコンペティションに出場し、「出る杭 is GOOD!! 賞」を受賞しました。現在は回転式コンポストの試作品を製作・試用し、来年度の本格運用に向けて仕組みづくりを進めています。

二つ目は、支障木（ししょうぼく）を活用した商品販売プロジェクトです。南信でのツアーをきっかけに松川町役場と連携し、商品企画からデザイン、販売までを行い、「およりの森祭り」で初出店を果たしました。今後は参加者を募り、チームでの商品開発・販売に発展させる予定です。

誰もが自分の『好き』を自信を持って発信し、やりたいことを実現できる環境を目指して、これからも精一杯活動に励んでいきたいと思っています！

久野 ひなか さん

プロフィール 長野県立大学グローバルマネジメント学部1年。鹿児島出身、千葉育ち。アイデアを出すのが得意で起業したいという思いが強く、起業家コースのある長野県立大学に進学を決意。大学では尊敬できる人や他と違うことをしている人に出会い、たくさん影響を受けたい、と思い学生コーディネーターに応募。誘われたイベントには基本的に参加し、新しいことを学び、人脈を広げることを意識して日々活動中。



長野県立大学の学生コーディネーターは、大学と地域の上に立ち、学生と「まち・人・学び」をつなぐ存在です。

学生ならではの視点で同世代の「やってみたい」という想いを汲み取り、地域での実践へと橋渡しをします。

日々の対話から「ひと・こと・想い」の接点をつくり、

誰もが新しい一歩を踏み出しやすい環境を整えることで、

大学での学びを地域の現場へとつなげ、新たな挑戦を後押ししています。

現 在は、長野市の農業公社と協力し、大学生に農業の魅力を伝えるプロジェクトに取り組んでいます。主な活動として、農業の現場や生産者の想いを伝える動画を制作し、SNSを通じて発信しています。若い世代が農業を「自分ごと」として捉えられるよう、親しみやすい表現や構成を意識しています。

また、白馬村では子どもたちを対象としたボランティア活動に参加し、地域との交流を深めてきました。さらに、白馬村の魅力や学生にとっての働く場を可視化するた

め、求人情報をまとめた専用サイトの立ち上げにも挑戦しています。こうした活動を通して、学生や地域をつなげる活動を行っています。

今後は現在活動している、農業を若い世代に向けて発信していくことを続けていながら自分自身がわくわくすることを見つめたいと考えています。また、これからも長野県内の様々な場所に足を運び1人でも多くの人と出会いたいと考えています。



※本人は左端

白橋 聖来 さん

プロフィール 長野県立大学グローバルマネジメント学部1年。沖縄県出身。高校の部活では自分たちの目線で沖縄の魅力を発信する部活動に所属。大学でも地域に積極的に関わりたいという思いと、昨年の学生コーディネーターの皆さんに憧れ長野県立大学に進学。地域で活動している方や、街の魅力を発信したいと思い学生コーディネーターとして活動中。



地域で活躍する 学生たち

長野県立大学は「地域イノベーション」をミッションに掲げ、学生と地域とのつながりを大切にしています。地域社会と深く関わるなかで、学生たちは自らの可能性をどのように広げているのでしょうか。それぞれの想いや具体的な活動内容について、詳しく語っていただきました。

社会変革人材に

小林 桜華さん グローバルマネジメント学部1年

エネルギーだけは有り余るほどある小林桜華です！今年度は寮長として寮組織の内部改革や寮生活の改善、向上に力を入れてきました。一年生交流会、寮祭、退寮祭の実行委員会立ち上げと運営を始め、リーダー会議の運営や寮生活の改善のため声を上げ続けた自信はあります。来年度もレジデント・アシスタントとしてまだまだこの素敵な象山寮の開拓に努めます。7月ごろからは分解ラボという名前で地域活動にも力を入れてきました。ゼロから寮にコンポストと畑、そしてそこから始まるコミュニティを作ろうとしているところです。この一年で行動意義や価値など深くまで考える力と自分自身を俯瞰して見ること、プレゼン力を鍛えることができました。私はコミュニティから生まれるエネルギーや人の流れに感動しますし、その感動を作る側の人間でいたいと考えています。2026年度もたくさんの人と繋がることを楽しみにしています。持ち前の行動力を活かしていくので来年度もよろしくお願いします！



中川ゼミ×コスタリカ大使館

小林 沙綾さん グローバルマネジメント学部2年

中川ゼミでの活動の一環として、駐日コスタリカ大使館とコラボし、ワールドフェスタin長野と長野県立大学学園祭FUNにて「Pura Vida! Costa Rica」のイベントを行いました。この活動では、主に長野県や学生へのコスタリカに対する知名度の向上を目的としており、カントリーレポートの作成やコスタリカに関するクイズ大会、コスタリカ産のコーヒーやホットチョコレートの販売を行いました。また、準備期間には、駐日コスタリカ大使館に訪問させていただき、当日には、アルクマやコスタリカ大使館のキャラクターであるTicoちゃんとも交流することができました。外部との連携が思い通りにいかず、行き詰ることもありましたが、無事に活動を終えることができました。この活動を通して、地域の方々とグローバルに交流し、様々な貴重な体験ができ光栄でした。将来は、私もコスタリカに訪問したいです！





3



珈琲アウラ

宮岡 万優莉さん 健康発達学部食健康学科4年

2025年5月にオープンした長野市東鶴賀町にある「珈琲アウラ」で、共同代表として経営に携わっています。仲間は県立大学の卒業生で、共にお店の運営に取り組んでいます。私は主にコーヒーに合わせたスイーツメニューやランチメニューの開発を担当しており、日々模索しています。大学在学中からこのような貴重な機会をいただいて活動できたことは、自身が成長するきっかけとなったと実感しています。

お店を始めるにあたっては、大家さんや近所の方々に温かく受け入れていただき、地域の支えを感じながら活動させていただいています。

今後も、引き続き頑張っていきたいと思います。

4



若者と農業をつなぐ架け橋に

村山 菜月さん 宮池 はな美さん 白橋 聖来さん

グローバルマネジメント学部1年

私たちは、長野の豊かな自然を五感で感じたい、そして将来の農業人口減少という課題に自分たちらしく向き合いたいという思いから、大学1年生3人で活動を始めました。現在は長野市農業公社の市民農園をお借りし、実際に野菜を育てる過程をInstagramで発信しています！「若者の農業へのハードルを下げる」ことを目標に、食の背景を知ってもらうための身近な発信を続けています。

活動を続ける中で、長野放送の『ふれ愛ながの』に取り上げていただくなど、私たちの思いが少しずつ地域に届いている手応えを感じています！今後は、地元の中学生と一緒に収穫体験を行うなど、より多世代を巻き込んだ活動に広げていきたいです。また、SNSを通じて興味を持ってくれた方に出演してもらうなど、誰もが農業を身近に感じられる「つながりの場」を作ることに挑戦していきます！

5



鬼無里の湯 実践型インターン

赤池 晃太郎さん グローバルマネジメント学部1年

長野市鬼無里の豊かな自然に囲まれた「鬼無里の湯」を舞台に、新たなアウトドアコンテンツを創出し、観光客を呼び込む実践型インターンシップに挑戦しています。この活動の最大の魅力は、自らの「こんなものが鬼無里にあったら、すっごく楽しそう！」という純粋なワクワクを起点に、アイデアを形にしていける点にあります。私は現在、鬼無里の里山ならではの冬の魅力を最大限に活かした「雪中サウナ」の実現に向けて奮闘中です。実現への道筋には、地域住民の方々との丁寧な合意形成や、提供価値の再定義、人員確保といった現実的な壁がいくつも立ちはだかります。しかし、この事業を机上の空論で終わらせず、地域に根差した事業としてどう着地させるかという「社会実装」に向けた試行錯誤は、何物にも代えがたい創造的な楽しさと学びに満ち溢れています。これまで山を愛し、遊び尽くしてきた「アウトドアのプロ」としての知見を鬼無里の地に還元していきます！

サマースクール in 白馬村

森田 一世さん 一之瀬 俊さん 北沢 豪士さん
 小林 桜華さん 白橋 聖来さん 酒井 花音さん
 三浦 愛理さん 村山 菜月さん 宮池 はな美さん
 グローバルマネジメント学部1年

私たちは白馬村で小中学生を対象としたサマースクールを行いました。小中学生の夏休みの宿題を手伝ったり、一緒に遊んだり、水遊びなど三日間実施。開催にあたるまで入念な計画を練りました。授業後みんなで集まり、どのようなことを行うか、お昼ご飯は何にするか考えたり、宣伝のためのポスター制作などを行いました。小中学生が魅力を感じ、どうやったら楽しんでもらえるか長期間みんなで考えました。私は最初小中学生と触れ合うことに苦手意識を持っていましたが、実際に中学生と触れ合い、自分が教える側になり得られたことが多かったです。このイベントは、私が色々なイベントやコミュニティに参加するようになった大きな要因です。

この経験を活かし今後のイベント開催などの計画に活かしていきたいと考えています。



7

TOY Snowboarding Academy

八田 登生さん グローバルマネジメント学部4年

雪を楽しむことを大切に、スノーボードのレッスン事業を行っています。スノーボードの魅力は、雪の上で感じるワクワクや楽しさを、年齢や国境を超えて分かち合えることだと思っています。

主に長野県内の小学生が参加してくれており、新しい技ができた瞬間や、これまでできなかったことに挑戦する姿など、子どもたちが自分自身と向き合う場面に多く立ち会ってきました。その姿から刺激をもらい、学ばせてもらうことが多くあります。我が子を応援するお父さんのような気持ちになることもあります。

今期で3年目となるアカデミーは、参加してくれる方々やスキー場のスタッフの皆さんがいるからこそ続けられており、心から感謝しています。大学2年から始めたこの事業を、これからも自分の手の届く範囲で大切に続け、身近な子どもたちの背中を押せる存在でいられたら嬉しいです。



8

わくわく！長野の伝統工芸

林 友菜さん 久野 ひなかさん グローバルマネジメント学部1年

長野県の伝統工芸には、思わず誰かに話したくなるような、個性あふれる魅力が詰まっています。私自身、実際に伝統工芸品の産地を訪れ、職人さんから制作の背景や想いを聞き、日常の中で工芸品を使う経験をしてきました。その中で、伝統工芸品がもつ唯一無二の価値や、使い続けることで生まれる愛着の大切さを実感しました。こうした体験を通して、伝統工芸は私たちの暮らしに寄り添う存在なのだと感じ、多くの人に伝統工芸のすばらしさを伝えたいという思いから活動しています。今後は、職人さんや地域の方々のお話を大切にしながら、体験や職人さんとの会話を通した楽しい企画だけでなく、それを通して伝統工芸の魅力の再発見で普段伝統工芸に馴染みのない若者も日常生活に取り入れたいと思うような企画を考えています。



9

10



須坂ユースセンターの運営 (信州古民家再生プロジェクト)

伊藤 葵さん 健康発達学部子ども学科2年

私たち一般社団法人信州古民家再生プロジェクトでは、須坂で中高生の居場所作りをし、地域交流の拠点とする活動をしています。

現在は須坂ユースセンターの運営に力を入れています。

部活が終わると「疲れた〜！」と中高生たちがユースセンターを訪れます。頑張りたい！やってみたい！と目を輝かせる姿も、「日々の色々に疲れたけどここなら休める」とこたつに入る姿も、「聞いてくださいよ！」と声を掛けてくれるのも、全て私の活動のやりがいです。これからもみんなが肩の力を抜いて、自分を大切にできる場所を維持していきます。

受益者負担の無い活動だからこそ、地域社会からの理解、そして寄付・協力が必要不可欠です。居場所があるからこそ、人は頑張れると思います。中高生だけでなく、地域全体にも「間違いなく必要だ」と感じてもらえるように、今後も運営を続けていきます。

11



音遊びの会

健康発達学部子ども学科2年 有志

私たちは、長野市の更北公民館で、親子を対象とした支援活動を行っています。活動には、主に0歳から3歳のお子さんとその保護者の方に参加していただき、親子のコミュニケーションのきっかけとなることを大切にしています。触れ合い遊びや身近な物を使った遊びなど、家庭でも取り入れやすい活動を行うことで、親子が自然に関わり合える時間を作っています。こうした遊びが、日常生活の中での親子のやりとりにつながっているのではないかと感じています。また、音楽に合わせて体を動かす遊びや紙芝居など、家庭とは異なる雰囲気の中で楽しめる活動も取り入れています。私たち自身も、子どもの反応や親子の関わりを間近で見ることができ、活動を通して多くの学びを得ています。

12



みんなで朝ごはん会

石原 美晴さん 藤松 あいさん 横井 美優さん

健康発達学部食健康学科4年

私たち今村ゼミ4年生は、月に1回、象山寮近くのR-DEPOTで、栄養バランスや食材にこだわった手作りの朝ごはんを提供しています。地域の方の「居場所づくり」や朝食欠食・孤食といった「健康課題解決のお手伝い」を目標に活動を続けてきました。参加者とのコミュニケーションを大切に、声掛けやアンケートボードなどの工夫を通じて、温かく居心地の良い空間つくってきました。回を重ねるごとに、まちにはお知り合いが増え、地域のイベントや企業との共同ごはん会のお誘いをいただき、活動の幅を広げることができました。アンケートからは、参加者の食行動に前向きな変化がみられ、活動の成果も感じています。みんなで朝ごはん会の開催は毎回とても楽しく、多くの学びと新たな出会いを得ることができました。また、この活動を通じて、地域とのつながりが深まったことにより、長野のまちがさらに大好きになりました。勇気を出して地域で活動を始めて本当に良かったです！

デリバリー・アカデミア

長野県立大学は、地域の「知の拠点」として、地域に開かれた「ともに歩む大学」を目指しています。その活動の一環として、本学の教員が講師となり、地域の皆さまにリカレント（生涯学習）、リスキングの機会を提供しています。

一般社団法人 長野県経営者協会

全4回連携講座「経営（学）を学ぶ」



講師 大学院 ソーシャル・イノベーション研究科 秋葉 芳江 教授
グローバルマネジメント学部 首藤 聡一郎 教授
グローバルマネジメント学部 東 俊之 准教授
大学院 ソーシャル・イノベーション研究科 大室 悦賀 教授

昨今、急速に変化するビジネス環境に対応するため、社会人の学び直しの重要性が高まっています。

こうした背景を踏まえ、本会では、地域社会と実務現場に深く根差した教育を展開している長野県立大学のご協力のもと、令和7年5月より全4回の連携講座「経営（学）を学ぶ」を実施しました。

経営に必要な基礎知識から実践的な考え方を体系的に学べる内容であり、経営幹部や管理職のみならず、若手社員や経営学に初めて触れる方にも理解しやすい構成としてい

ただきました。

参加者からは、「多くの学びや新たな視点を得られた」「普段触れることのない視点に刺激を受けた」などの声が寄せられ、本講座を通じて、参加者一人ひとりが思考を深め、変化に対応できる力を養う契機となりました。

今後も長野県立大学との連携講座を継続・発展させ、地域と企業をつなぎ、実務と理論を結びつけながら学び続ける機会を提供していきたいと考えています。

一般社団法人長野県経営者協会 労政部
原田 岳志さん

かがやきひろば篠ノ井

レクチャーピアノコンサート TIME・ASPECT No.1

講師 健康発達学部こども学科 大南 匠 教授



かがやきひろば篠ノ井では12月2日に現代音楽をテーマにした大南匠教授の「レクチャーピアノコンサート TIME ASPECT No.1」を実施しました。受講者30名が大南教授による演奏を聴きながら現代音楽の特徴や背景について学ぶことができました。

参加者からは「難しいと思っていた現代音楽が身近に感じられた」「生の演奏を聴きながら学べて理解しやすかった」などの声が多く聞かれました。

デリバリーアカデミアは、大学の専門的な知見を地域に還元する取り組みとして意義深く、かがやきひろばの目的の1つでもある高齢者が新たな分野に触れ、学び続ける機会を提供することで生涯学習の推進にもつながる有意義な機会とすることができました。

次年度以降も、このデリバリーアカデミアを利用し、多様な文化・芸術に触れられる学習機会の充実を図っていききたいと考えています。

かがやきひろば篠ノ井（篠ノ井老人福祉センター）
深瀬 祐子さん

デリバリー・アカデミアへのお申し込み

デリバリー・アカデミアの講座内容の詳細や受講対象者、お申し込み手続き等については、右記の二次元コードからご確認いただけますので、ご覧いただき、ご希望の講座にお申し込みください。



2025年度デリバリー・アカデミア実績一覧

月 日	団 体 名	講 座 名	講 師 名
5月 21日	一般社団法人 長野県経営者協会	世界で進む持続可能社会への動きを知る	秋葉 芳江 教授
6月 25日	一般社団法人 長野県経営者協会	経営戦略論	首藤 聡一郎 教授
6月 13日	北信 SLA（北信高等学校図書館協議会）	リノベーションまちづくりについて	築山 秀夫 教授
6月 19日	長野東高等学校	哲学対話で学習をさらに深めよう！	神戸 和佳子 准教授
6月 27日	長野県町村会	攻める自治体「東川町」- 地方創生・地域活性化の実践モデル-	中村 稔彦 准教授
7月 20日	佐久市教育委員会・佐久市少年センター育成推進協議会	音の表現を楽しみましょう！	安氏 洋子 准教授
7月 29日	一般社団法人 長野県経営者協会	身近な事例から考える経営学	東 俊之 准教授
7月 31日	一般社団法人 長野上水内教育会	哲学対話で学習をさらに深めよう！	神戸 和佳子 准教授
8月 8日	長野県木曾保健福祉事務所	音の表現を楽しみましょう！	安氏 洋子 准教授
8月 21日	東筑摩郡村議会議長会	攻める自治体「東川町」- 地方創生・地域活性化の実践モデル-	中村 稔彦 准教授
8月 25日	一般社団法人 長野県経営者協会	変わりゆく企業モデル	大室 悦賀 教授
8月 29日	長野県中小企業家同友会	グループ活動・組織活動に役立つ経営組織論	東 俊之 准教授
11月 12日	長野東高等学校	哲学対話で学習をさらに深めよう！	神戸 和佳子 准教授
12月 2日	かがやきひろば篠ノ井	レクチャーピアノコンサート TIME・ASPECT NO1	大南 匠 教授
12月 9日	中信高等学校図書館協議会	哲学対話で学習をさらに深めよう！	神戸 和佳子 准教授
2月 17日	長野県中小企業家同友会	経営戦略論	首藤 聡一郎 教授

北信SLA（北信高等学校図書館協議会）

リノベーションまちづくりについて

講師 グローバルマネジメント学部 築山 秀夫 教授



令和7年度北信高校SLA第2回理事会が、6月13日に本校、長野南高校で開催されました。その中の研究会では、長野県立大学グローバルマネジメント学部、公共経営コース長の築山秀夫先生をお招きして、「リノベーションまちづくりについて」と題しまして、講演をしていただきました。

まず、最初に長野県立大学グローバルマネジメント学部の説明をしていただきました。グローバルな視野をもち、アントレプレナーシップを身につけ、地域社会のリーダーとなる人材を育成するというので、本校でも毎年、志望する生徒がいますので、大変意義のあるお話を聞かせていただきました。

さて本題ですが、一箱本棚オーナー制度の私設図書館「まちかど図書館ぼたん」のお話をお聞きしました。築山先生が運営の主体となって、築山先生のもとで社会学を学ぶ築山

ゼミの3、4年生18人も協働運営するというので、学生に体験させることにより、成長させたいという築山先生の思いに感銘いたしました。

この「まちかど図書館ぼたん」は2022年4月に閉店したボタン店「ぼたんのいとう」を再利用したもので、その発想もボタン店を残したいという、築山先生の熱い気持ちが伝わってきて感動いたしました。

本の貸し出し、館内閲覧だけでなく、定期的に「ぼたんだより」を発行したり、座談会を開催したりと多様な人たちに集まってもらい、影響を与え合って、創造的な空間をつくりだしたいという築山先生の思いがこのような幅広い行動につながっていると思いました。今後ともご活躍ください。

この度はほんとうにありがとうございました。

長野南高等学校 上條 史夫さん

長野県木曾保健福祉事務所

音の表現を楽しみましょう！

講師 健康発達学部こども学科 安氏 洋子 准教授



長野県では保育技術の向上や保育内容の充実を目的として、毎年県内10の保健福祉事務所で保育士対象の研修会を開催しています。当所は、安氏先生をお招きして、音楽を取り入れたワークショップを行いました。

「子どもが様々な関わりを大切に、それを楽しいと感じる体験ができるようにすることが重要」であることを体験するため、絵本「めっきらもっきら」を題材に、数人のグループに分かれて音の絵本づくりを行いました。

参加者が道具や楽器を使いながら笑顔で音を奏でる様子はとても楽しそうで、講義内容を実感できたのではないかと思います。また、保育現場における音楽の大切さを見つめ直した保育士も多かったようです。

子どもの成長過程では、音楽が重要な役割を果たしていると言われていています。この講義を通じて、保育現場における「音楽の大切さ」の理解が更に広がり、未来を担う子どもたちの育ちに生かされることを願っています。

長野県木曾保健福祉事務所福祉課 社会係長
藤森 美恵子さん

一般社団法人 長野上水内教育会

哲学対話で学習をさらに深めよう！

講師 大学院 ソーシャル・イノベーション研究科 神戸 和佳子 准教授



神戸和佳子先生による「哲学対話で学習をさらに深めよう！」を、長野上水内教育会夏季大学の臨地講習で2年間実施しました。令和7年度は7月31日（木）黒姫童話館周辺をフィールドに、思索を深め、参加者同士の交流を促すひとときとなりました。参加者は、教職員や一般市民の方34名でした。

涼しい高原で散策しながら、グループの皆さんと『意味のないもの』を探し「見つけたものを言葉に置き換えると意味が生まれる、

グループでそれをつなげると素敵な詩になる」という体験を味わいました。哲学対話の根強い一般のファンも参加され、教職員にとっても多様な参加者で行う対話は、多くの刺激を受けたようです。黒姫童話館の方からお聞きしたミヒャエル・エンデや松谷みよ子など、黒姫に縁の深い童話作家の金言も思索を深めるきっかけとなりました。今後も、こうしたフィールドワークを夏季大学の講座として位置づけていきたいと思っています。

長野上水内教育会事務局長
田川 昌彦さん

公開講座

CSI公開講座は、学生と地域の皆さんが共に地域の未来を考える「共創的な学びの場」です。第一線で活躍する実践者から、持続可能な社会づくりの知識やヒントを直接学びます。対話や活動報告などを通じて交流を深め、新たなアクションが生まれるきっかけを創り出しています。



長野市芸術館 お届け芸術館 ジェイコブ・コーラー ピアノコンサート

実施日 2025年6月5日 (木)
ゲスト ジャズピアニスト ジェイコブ・コーラー 氏
一般財団法人長野市文化芸術振興財団

参加者の声

学生さんとのコラボ演奏やダンスも素晴らしく、また見たいと思いました。また、大学に足を運ぶ機会にもなり、地域とのつながりを感じることもできました。



福島の未来を拓く！ 若手実践者が見据える 地域再生とイノベーション

実施日 2025年12月5日 (金)
ゲスト 谷田川 佐和 氏(大熊インキュベーションセンター) 公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構 飯田 喜之氏 一般社団法人ふくしま部

参加者の声

地域を通しての人生の在り方について考えるきっかけとなりました。自分が大切にしたいこと・自分とは何かを考えることができました。地域との関わりをどのように創造しているのか、より詳しく知りたいと思いました。



緑を活かすイノベーション Vol.3 ：長野市の山林で描く、 森林活用アイデアワークショップ

実施日 2025年6月28日 (土)
ゲスト 長野県環境保全研究所 研究員 小林 慶子 氏
Team Yamassho

参加者の声

同じ関心を持った人たちと出会い、アイデアを出し合う楽しさを知りました。いい繋がりが生まれてありがたかったです。



問いから始める自己実現。 宿から始める地方創生。

実施日 2025年12月15日 (月)
ゲスト Local knot株式会社

参加者の声

ジャーナリングを通して自分の感情のなぜ?どうして?を振り返ることができ、これから何をやっていくかについても決めることができました。そして、趣味の映像撮影をビジネスとしてやってみたいという思いがあるが、相談させてもらって実際に行動に移す流れとなりとても良い機会となりました。



EGL シンポジウム 2025

実施日 2025年 10月22日 (水)
ゲスト 藤原 辰史 氏 (京都大学人文科学研究所 教授) 非営利活動団体 エディブルガーデンラボ

参加者の声

非常に考えさせられました。エディブルガーデンというよりは、すべての食、人のありかたの、哲学の話が面白かったです。



伊那谷から地球を想う KOAとふるさと経営、 86年の歩みと未来 (From Davos To Inadani)

実施日 2025年12月22日 (月)
ゲスト KOA株式会社 取締役会長 向山 孝一 氏

参加者の声

先祖への感謝と大自然への畏敬の念の大切さを、生きる根っこに据えている人物の潔さを学びました。



なぜ僕は、 長野で挑戦し続けるのか ~プロサッカー選手から桃農家へ。 地域貢献とセカンドキャリア~

実施日 2025年11月25日 (火)
ゲスト おはしふあーむ 園主 大橋 良隆 氏

参加者の声

農業への魅力を感じました。自分が興味ある分野ではありませんでしたが参加したことでとても農業に対して興味を持ちました。



地域活動報告会

実施日 2026年1月28日 (水)

参加者の声

大変感動しました。座学だけでなく、地域に飛び出してたくさんの大人や関係者と協働することについて、学生はもちろん、大学側の関係者の皆様も多くのご苦勞があったかと推察します。皆様のこれからの活躍を応援したいと思いました。ありがとうございました。

産官民学の連携

産・官・民・学それぞれの得意分野を活かしながら連携して取り組むことにより、新たな価値創出や地域課題の解決を推進しています。

「人と地域をむすぶ、おむすびプロジェクト」 in 野沢温泉村

本プロジェクトは、地域資源であるお米と旬の食材・根曲がり竹を活かした新しいおむすびメニューの開発を目的に、株式会社野沢温泉企画が県立大学の学生と協働して実施しました。試作や意見交換を重ね、味のバランスや地域性、見た目などを検討しながら、企画から実際の販売までのプロセスをともに進めました。学生ならではの柔軟な発想から新たな視点を得られたことに加え、学生が一から商品をつくり、販売まで行う経験を共有できたことは大きな収穫です。食を通じた交流に加え、過疎化が進む野沢温泉村において、学生が活躍できる場を創出できたことも意義深い取り組みとなりました。今後も季節ごとに食のプロジェクトを実施し、地域課題と向き合っていきたいと考えています。



株式会社野沢温泉企画
上田 亜依さん

シャチョー！とミーティング（県内企業経営者との交流会）

長野県が抱える課題の一つに若者の県外流出が挙げられます。就職活動では売り手市場が進み、県内企業の魅力を深く知らないまま首都圏の大企業を希望する学生も少なくありません。一方で、知名度は低くても魅力のある企業が県内にはたくさんあることから、県内企業の経営者と県内外の学生との交流の場を設けて、県内企業の強みや県内で働くこと、さらには企業経営の魅力等を学生に知ってもらいたいと考え、イベントを企画しました。

実施に当たっては、長野県立大学の皆様に会場の確保、学生への広報を協力いただき、産業界からはロータリークラブご協力のもと、伊那食品工業、高島産業、NiKKi Fron、日本銀行松本支店のトップの方々にお越しいただき、参加された学生の皆さんはカジュアルな雰囲気のもと、県内就職の魅力や県内企業の経営方針など様々な話を聞くことができました。参加企業の皆さんにとっても、学生との交流は貴重な経験となり、双方から好評をいただくイベントとなりました。

今後も、産学官の連携を強化し、県内企業の魅力等を学生に発信することで県内就職の促進に努めてまいりたいと考えています。



長野県労働雇用課 主事 市川 祐介さん

地元企業・大学・千曲市が創りだすものづくりの体験型展示会を開催

『ものづくりフェア千曲』は、次世代を担う子どもたちに千曲市の技術を紹介するための展示会です。出展企業による体験型展示に加え、学生が企画運営に参画し、自治体が事務局を担う「産官学連携」の形をとっています。

本年度は、長野県立大学・楊ゼミの皆様にご担当いただきました。市内のぶどう生産業者4件への取材を通じた丁寧な解説は大変好評で、来場者からは「説明が分かりやすい」「地元のワインに興味を湧いた」などの声が多数寄せられました。

開催2年目ながら、世代を問わず多くの方々に支持されるイベントとなり、今後も継続的な開催を目指してまいります。



千曲市産業支援センター
コーディネーター 大日野 恵史さん

「ひろがれ！推し村プロジェクト」

ひろがれ！推し村は今年で4期を迎えました。本プロジェクトは「好きを解放すること」を軸に、学生一人ひとりが自分の関心や違和感を起点に地域と向き合う実践型の取り組みです。今回のテーマは「それって本当にそうなんですかね」。地域課題や社会の常識を当たり前として受け取るのではなく、問いを立て直すことを大切にしました。学生たちは王滝村に滞在し、地域行事への参加や自主企画、ゆる活との共同イベント、DIY企画などを通じて交流を深めました。「学生さん」ではなく「〇〇さん」と名前と呼ばれる関係性が生まれ、相互の学びと気づきにつながっています。今後も「好きを解放」する実践から、多角的に思考するプロジェクトを続けていきます。



王滝村集落支援員
杉野 明日香さん

地域連携シーズ集

本学教員の研究活動や地域貢献をわかりやすく紹介するため、「地域連携シーズ集」を作成しました。本シーズ集は、各教員の専門分野や地域との連携実績、今後取り組みたい地域との連携内容が記載されており、地域の皆さまと本学教員との連携を深めるための重要なツールとして、新たなコラボレーションの機会を創出し、地域の発展に寄与することを目指しています。地域の皆さまにとっての情報源として、ぜひご利用ください。なお、「地域連携シーズ集」は、右記の二次元コードからご覧いただけます。




長野県立大学がこれまでに締結した協定一覧（2026.2.28現在）

No	締結年月日	締結先	協定の種類
1	2018. 7. 10	長野市	包括連携協定ほか
2	2018. 9. 11	飯山市	包括連携協定
3	2018.10. 5	千曲市	包括連携協定
4	2019. 2. 5	長野県 BIPROGY (株)	ソーシャル・イノベーションに関する連携協定
5	2019. 3. 15	中野市	包括連携協定
6	2019. 6. 4	須坂市	包括連携協定
7	2019.11. 8	KDDI (株) (一社)長野 I T コラボレーションプラットフォーム (NICOLLAP)	包括連携協定
8	2020. 1. 31	(独)国立高等専門学校機構長野工業高等専門学校 (長野高専)	包括連携協定
9	2020. 8. 4	長野県教育委員会 KDDI (株)	包括連携協定
10	2022. 3. 29	国立大学法人信州大学	包括的連携協定
11	2022. 5. 27	王滝村	包括連携協定
12	2023. 4. 1	飯綱町	教育・保育及び子育て支援分野における連携に関する協定
13	2023. 5. 30	(一社) VENTURE FOR JAPAN (一社)長野 I T コラボレーションプラットフォーム (NICOLLAP)	包括的連携協定
14	2023. 6. 1	(公財) ながの観光コンベンションビューロー	包括的連携協定
15	2024. 2. 6	東御市	包括連携協定
16	2025. 1. 27	(公財) 長野県産業振興機構	長野県内中小企業に対する支援連携に関する協定





名 称 公立大学法人 長野県立大学ソーシャル・イノベーション創出センター
(Center for Social Innovation Initiatives, CSI)
設 立 2018 (平成30) 年4月1日
所 在 地 長野県長野市南長野西後町614-1 (長野県立大学後町キャンパス)


STAFF 東 俊之 センター長
(2026.2.28現在) 市川 知明
菅沼 隼人
植杉 実乃里
小林 絵美子

 <https://www.u-nagano.ac.jp/cooperation/csi/>

 <https://www.facebook.com/CSI.nagano/>

 csi@u-nagano.ac.jp

 026-262-1725

 026-262-1726



長野県立大学
THE UNIVERSITY OF NAGANO



長野県立大学は
「長野県SDGs推進企業登録制度」
第1期登録組織です。

制作・印刷 株式会社ブラルト

発行日 2026年3月20日

※本誌記載内容の無断転載はご遠慮ください